



被災前の産業奨励館（1F 一部・3F 中国・四国土木出張所） 広島公文書館所蔵
建設省（内務省）原爆殉職者慰霊碑と原爆ドーム

原爆ドームは、大正4年8月5日広島県物産陳列館として開館し、県下の物産品の展示等に利用された。（ドーム部分5階、周囲3階建てでチェコの建築家ヤン・レツル氏設計）大正10年広島県商品陳列所、昭和8年広島県産業奨励館に改称、戦時要請に伴い本来業務を停止し、官公庁（当出張所・県土木出張所）や統制組合の事務所として使用された。

昭和18年11月の行政改革により、神戸土木出張所及び下関土木出張所と大阪土木出張所の一部を統合して内務省中国四国土木出張所が、広島県産業奨励館（原爆ドームの3階全部と1階の一部使用）内に設置された（全国6土木出張所のうちの1つ）。当時の組織は、2部6課、21事務所、4工事本部、総人員651名（実人員500名、定員外151名）で構成され、内務省本来工事（河川・砂防・道路工事）と軍工事（海軍・陸軍関係工事）を担当していた。

内務省は昭和22年12月に廃止され、23年1月から建設院となったが、23年7月10日には新たに建設省が設置されて、建設省中国四国地方建設局が誕生した。その後、昭和33年6月には中国と四国が分離し中国地方建設局に、さらに省庁再編による平成13年1月6日の国土交通省発足に伴い中国地方整備局となり現在に至っている。

原子爆弾は、昭和20年8月6日午前8時15分当出張所の南東150mの上空580mで炸裂したと推定される。

当時の職員の罹災状況は、職員93名のうち殉職者が52名（男30名・女22名で庁舎執務13名・作業中32名・業務不明7名）、負傷者は9名、無事職員は32名であった。（当日の奨励館での勤務は庶務課のみで、他は空襲に備えて牛田町官舎等へ分散勤務していた。）

慰霊碑（供養塔）は、当初昭和22年に木製で建立したが、昭和29年に自然石（呉市郷原町産出）の歌碑に取替えられた。（公園内に墓所は設けられないため歌碑としたもの。）

昭和42年のドーム周辺補修工事に関連して現在地へ移設された。

歌碑

原爆のいけにえとなりし人びとは なごみゆく世の いしすゑに志て

阿部 一郎 （原爆投下当時の中国四国土木出張所長）

しだいに復興されてゆく新生日本の礎として不運にも原爆でなくなられた
かたがたを思うにつけ この貴い犠牲を無にしないよう我々は 君達がねが
いはたさなかった平和な國の建設により一層の努力を傾けたいと思う どう
か安らかに眠り下さい

慰霊祭は、昭和20年・21年は仏式による合同慰霊祭、22年以降は単独慰霊祭、47年から建設省（内務省）原爆殉職者慰霊碑前で挙句、また、平成8年からは慰霊式に改めた。

慰霊碑案内柱は昭和55年に（社）中国建設弘済会によって建立された。

平成8年12月7日、原爆ドームは世界遺産として登録された。